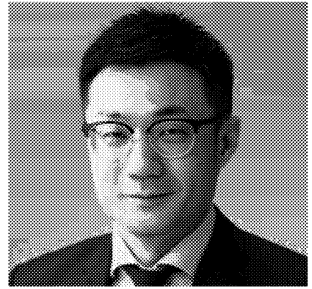


健康な肺の微粒子を投与

東京慈恵会医科大学講師 藤田 雄氏



ふじた・ゆう 2007年東京慈恵会医科大学卒業。15年カリフォルニア大サンディエゴ校博士研究員。18年東京慈恵会医科大学助教を経て、20年より現職。専門は呼吸器内科で、新型コロナウイルス感染症の研究・治療も担当。

コロナ重症者の新治療

「例えば、急激に呼吸不全が進む『急性呼吸窮迫症候群（ARDS）』の患者では、病原体を排除するはずの免疫が暴走し、自分の体を傷つけている」

「重症化した人の一部で「健康な人の肺の細胞が」

「現在、抗ウイルス薬や炎症を抑えるステロイド薬などが中心だ。ただ、死亡率を大幅に下げはならず、重症患者の治療法としてまだ十分ではない」

「人の免疫を元に戻す点で新しい。正常な肺の免疫細胞はエクソソームを使い、必要な情報を伝達する。体内に入れると免疫の暴走や線維化を止める作用などが働いて、肺が正常な状態に戻る」とみている

「治療効果は、マウスで確認している。ヒトのエクソソームを、重症な肺炎を起したマウスに吸入させると症状が改善した。毒性もみられなかった。肺への局所投与のため、副作用は少ないとみている」

「現行の治療薬とはどのように違いますか。」

「肺組織の一部が硬くなる線維化という後遺症が起きるといふ報告がある。線維化した部分は将来がんになるリスクもある」

「新治療法はどのような仕組みですか。」

「健康な人の肺の細胞が出す微粒子『エクソソーム』を溶かした液体をエアロゾルにして患者に吸わせる。細胞はエクソソームを使い、必要な情報を伝達する。体内に入れると免疫の暴走や線維化を止める作用などが働いて、肺が正常な状態に戻る」とみている

「治療効果は、マウスで確認している。ヒトのエクソソームを、重症な肺炎を起したマウスに吸入させると症状が改善した。毒性もみられなかった。肺への局所投与のため、副作用は少ないとみている」

「現行の治療薬とはどのように違いますか。」

「日本発、多くの感染症に備え」

「記者の」

「記者の」

「記者の」